

飯能西中だより



天覧山 2月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和4年度 第11号
令和5年2月1日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

最近の話題で思うこと

校長 中村 公一

先週から強い寒気が日本列島全体に流れ込み厳しい寒さが続いています。このあたりでは目立った降雪はなく交通への影響は出ていないものの、普段あまり雪が降らない西日本では雪の影響で高速道路や鉄道が麻痺してしまった様子が報道されており、ちょうど8年前に首都圏で大雪が降りほとんどの交通機関が麻痺してしまったことが思い出されます。今月中にはもう一度寒波が来そうだという見方もあるようなので油断しないようにしていきたいものです。また、新型コロナウイルスの第8波にあわせて季節性のインフルエンザの流行も未だに心配されていることから、受験生が今のところは手洗いやマスクの着用など基本的な防疫対策を続けて行きたいと思っています。報道などによれば新規感染者の数は減少に向かっているものの、新型コロナウイルス感染症により全国で亡くなった方の数は先月初めて1万人を超えたそうです。このような中、今年の5月8日から新型コロナウイルス感染症の扱いを、今の2類相当から5類相当に今年の5月から引き下げることが決まったとの報道もあり、現状とのギャップに違和感を覚えている方も多いようです。マスクの着用についても個人の判断に任せるという方針のようですが、それぞれの考え方にはそれなりの道理があつてのことなので、保護者の様々な考え方が寄せられる学校では、これをどのように扱っていくのか、なかなか難しい問題となりそうな気がします。

最近はこのような憂鬱な話題ばかりに気を取られてしまいがちですが、中学生の活躍によって明るい話題がもたらされる出来事が最近ありました。ご存じの方も多いいと思いますが、先月1月15日に京都で行われた都道府県対抗女子駅伝での中学生（ドルーリー朱瑛里さん）の活躍です。岡山県の代表選手として参加し、3区（3km）で17人を抜き、9分2秒の区間新記録を出したというニュースは、スーパー中学生の誕生として、陸上競技にあまり関心を持っていなかった人たちにも大変な快挙として受け止められました。その様子をテレビのライブ中継で観ていた岡山県の人たちは、チームの役に立ちたいと純粋な気持ちで懸命に走る中学生の姿を見て本当に勇気づけられたといいます。しかし、その一方で全国的な話題となった彼女をメディアが放っておくはずもなく、既に取材等が過熱気味になりつつあるとも聞きます。15歳の少女が傷つくようなことになりはしないか新たな心配が生まれそうです。

「言いたいこと」と「言わなければならないこと」

生徒の皆さんへ

みなさんにはこの二つの違いがわかるでしょうか。私たちが「言いたいことを言っているとき」というのは、自分の気持ちを相手にわからせようと感情が中心に働いているときです。言った後で自分はずきりするかもしれませんが、相手の心には深い傷を与えてしまっていることが多いのです。それに対して「言わなければならないことを言っているとき」というのは、なんとか相手に状況を理解してもらおうと理性が中心に働いているときなのです。言う前も、言った後も自分の心の中には苦痛を伴うことがほとんどで、言った内容によっては相手が感情を損ねてしまうこともあったりします。ところが相手の心を深く傷つけるというようなことはあまり無く、時間がたった後で感謝されることもあったりします。この区別は大人になってもなかなか瞬時に出来るものではないのですが、私がこれまでに出会った人の中でこれがスマートに出来ていた人は、大勢の人に心から慕われていたように思います。

「言いたいことと、言わなければならないこととは厳に区別すべきである。」これは今から87年前にある人が言った言葉なのですが、それについては校長講話で詳しくお話ししたいと思います。

校長講話から「言いたいこと」と「言わなければならないこと」

「言いたいことを言うこと」と「言わなければならないことを言うこと」とはどのようにちがうのか、よくみかける光景を例に説明してみたいと思います。例えばあなたの近くに、話し声がとても大きな人がいて、あなたをはじめ周りの人たちの会話の妨げになっているようなことがあったとします。

この人に勇気を出して声をかけてみる場面を考えてみましょう。もしもあなたが「うるさくて迷惑になっているので静かにしてください。」と言ったとしましょう。確かに言われていることは事実としてその通りなのかもしれませんが、こういう言われかたをしてしまうと、相手にとってみれば、今、自分のしていることが全て否定されたような気持ちになるばかりか、静かにしろと強制されたような気持ちになってしまい、人格まで否定され傷つけられたように感じてしまうことが多いのです。そのためかえって反発したい気持ちにもなってしまいます。しかし、もしもこれが「勝手なお願いで心苦しいんですがもうすこし音量を下げてもらえますか。」という言い方であれば、相手にとってみれば、今、自分のしていることすべてを否定されたわけではありませんし、静かにすることをお願いされているわけですから、すぐには素直になれないことがあったとしても、あなたから傷つけられたとまでは思わないはずで、また、あなたの求めに応じるかどうか考えてもらうことによって冷静さをうながすこともできるわけです。

最初の「うるさくて迷惑になっているので静かにしてください。」という言い方は正しいことを理論的に説明しているようにも思えるのですが、実は言葉が感情に支配されている状態なのです。一方で後の方の「心苦しいんですがもうすこし音量を下げてもらえますか」という言い方は相手を説得するために理性で言葉が支配できている状態といえます。最初の言い方の方が、言った後はすっきりするかもしれませんが、あとの方だとなんだか遠慮しているようでもやもやしているかもしれません。けれども、結果的にどちらの言い方が相手と自分、双方にとってプラスになるかを考えるようにしなければいけません。自分の権利を守るためにはいわなければならないことがあります。しかしそれはただ言いたいことを言えばいいということではないのです。

「うるさくて迷惑に
なっているので
静かにしてください」

言葉が感情に支配されている状態

相手は反発したい気持ちになる

「勝手なお願いで心苦しい
のんですがもう少し音量を
下げてもらえますか」

理性で言葉が支配されている状態

相手は求めに応じる気持ちになる

「言いたいこと」と
「言わねばならぬこと」は
厳に区別すべきである

桐生悠々の言葉

○ 2月の主な行事予定 ○

4日(土) 第3回学校公開日	20日(月) 3年学年末テスト
6日(月) 振替休業日	21日(火) 1・2年学年末テスト、給食なし
9日(木) 県立高等学校出願(郵送)	22日(水) 1・2年学年末テスト、 公立高校学力検査、3年生給食なし
15日(水) 県立高等学校志願先変更	24日(金) 公立高校実技検査、3年生給食なし
16日(木) テスト前諸活動停止	
17日(金) 3年学年末テスト	